

今夏、ついに再開!!

親善大使として
サーモンアーム市へ行こう!



稲敷市では「第12回稲敷市親善大使海外派遣事業」
として、姉妹都市であるカナダ・サーモンアーム市へ
中学生・高校生等を派遣します。カナダの大自然に囲
まれながら、ホームステイでの滞在を通して現地の生
活を肌で感じてみませんか？一生忘れられない、かけ
がえのない感動があなたを待っています！

「令和8年稲敷市はたちの
集い」にて、2019年派遣
事業に参加された高城あか
りさんが意見発表を行いま
した。サーモンアーム市で
の経験が、現在の進路を選
ぶ「大きなきっかけ」になっ
たとのこと。当時の挑
戦が、高城さんの歩みを力強
く支えています。



発表内容の全文はこちらからご覧ください→



- ・派遣期間 令和8年8月17日(月)～25日(火)【9日間】
- ・募集人員 8名【内訳】中学生4名・高校生等(高校生及び下記*に該当する方)4名(それぞれ男女各2名)
*2007年4月2日から2008年4月1日生まれの方：中学1年～高校3年の期間が本事業の休止期間と重なり、応募機会がなかったため、
今回のみの特例措置として募集対象に含めます。 ※募集定員を超える場合は抽選により決定します。
- ・参加費用 約40万円(変更となる場合あり) ※参加費用の1/2を助成します。
- ・応募方法 4月28日(火)までに応募書類をまちづくり推進課に提出(郵送可)してください。
- ・応募書類 派遣申込書、申込者の方への質問事項(別記様式) ※様式は、市ホームページからダウンロードできます。
- ・申込、問合せ先 稲敷市まちづくり推進課 029-892-2000(内線2425)



募集要項等の詳細は市ホームページをご覧ください

2025/12/14 開催

ボッチャ体験を通じた国際交流事業

筑波大学の留学生をゲストに迎え、ボッチャによる交流イベントを開催しました。参加者の皆さんは留学生と混合チームを結成し、英語を交えて熱心にコミュニケーションを図る姿が印象的でした。一球ごとに歓声上がるなど、スポーツが生む一体感によって、会場は終始和やかなムードに。国籍を超えた笑顔あふれる交流の場となりました。



2026/2/7 開催

外国人市民の皆さんとの交流事業



市内在住の外国人市民の皆様を対象に料理教室を開催！根本礼子理事が講師となり、見た目も華やかな『富士山の巻き寿司』づくりに挑戦していただきました。最後に自分の手で作った巻き寿司を切り分け、綺麗な富士山の模様が現れると、感嘆の声と笑顔が溢れました。

調理後は、小貫直美理事が抹茶を振る舞い、日本の食文化を楽しみながら、和やかな交流の時間となりました。



Pick up 「友情の家」のご紹介



あずま生涯学習センターに隣接する「友情の家」は、サーモンアーム市からの友好の証として、カナダから木材を運び、2002年に完成したものです。

現在は、憩いの場として利用されており、生涯学習講座「門松づくり」（令和7年12月20日開催）の会場などとしても活用されています。

information

稲敷市姉妹都市交流委員会

会員募集中！

稲敷市が実施する姉妹都市交流事業への協力や、各種事業の企画運営をしています。詳しくは、稲敷市ホームページをご覧ください。

学生の方大歓迎！

(学生の方の会費は無料です)

年会費：一般2,000円 法人10,000円 学生無料

【申込・問合せ】

稲敷市 まちづくり推進課内事務局
029-892-2000 (内線2425)



会長あいさつ

稲敷市姉妹都市交流委員会
会長 清水美香



遂に、海外派遣事業の再開が決定いたしました。市民の皆様がこの日を待ち望んでいたように、サーモンアーム市の皆様も私たちの訪問を待ち続けてくれていました。再開に至るまで、多方面で多大なるご協力をいただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

一時は再開が困難ではないかという不安がよぎる時期もありました。しかしそのような時こそ、当委員会の存続と存在意義をかけ、私たちは歩みを止めませんでした。市内在住の外国籍の方々や筑波大学留学生との交流など、新たな試みは稲敷市における国際交流の新しい形を築ききっかけとなりました。

また、今回の募集にあたっては、コロナ禍により参加資格を逃した方々への救済措置を講じています。様々なご意見があるかと存じますが、「すべての子どもたちに公平なチャンス」という当委員会の強い願いによる判断です。何卒、皆様の温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

編集後記

コロナ禍以降、長らくお待たせいたしました。青少年が世界へとつながるチャンスが復活します。

この募集の案内が多くの方の目に触れて、多くの応募が寄せられ、稲敷市の青少年が、勇気ある一歩を踏み出すことを期待いたします。その一歩はただの一歩ではありません。世界への一歩となるかもしれないのです。未知なる可能性を大きく広げていただければ、幸いです。

編集：稲敷市姉妹都市交流委員会広報委員

山本彰治(委員長) 倉田九豪(委員) 小貫直美(委員)

稲敷市まちづくり推進課